

アメ車 de GAHAGAHA

変速ショックを軽減、車内の利便性も向上

ダイムラー・クライスラーは、2000年の導入以来、全世界で人気を博している「クライスラー・PTクルーザー」の2007年モデルを発売中。2.4L直列4気筒DOHC16バルブを搭載し、最高出力105kW(143PS)、最大トルク214N・m(21.8kg-m)を発揮する、クライスラー・PTクルーザーの2007年モデルには、スタンダードグレードの「クラシック」、ラグジュアリーグレードの「リミテッド」の2つのグレードを設定。2007年モデルでは、4速ATにシフト変速時のショックを軽減するバリアブル・ライン・プレッシャー機能を追加。また、センターコンソールライト(カップホルダーライト)の追加により利便性の向上を図っている。さらに新色のボディカラーとして、オパールメタリック、パステルイエロー、タンジェリンの3色を追加。合計8色のボディカラーを用意した。



クライスラー・PTクルーザー クラシック(右ハンドル/4AT)274万5000円
 クライスラー・PTクルーザー リミテッド(右ハンドル/4AT)321万3000円

ジープ・ラングラースポーツ(右ハンドル/4AT)323万4000円
 ジープ・ラングラーサハラ(右ハンドル/4AT)368万5000円
 ジープ・ラングラールビコン(右ハンドル/6MT)384万3000円
 ジープ・ラングラーアンリミテッドスポーツ(右ハンドル/AT)379万5000円
 ジープ・ラングラーアンリミテッドサハラ(右ハンドル/4AT)



ラングラー初の4ドアオープンエアアンリミテッドが投入された

ダイムラー・クライスラーは、ジープの伝統をもっとも色濃く継承する新型車「ジープ・ラングラー」、「ジープ・ラングラーアンリミテッド」の発売を開始した。

1941年ウィリスMB誕生以来のオリジナル・ジープ直系でありジープのアイコン的存在であるラングラーは、6世代目として10年振りにフルモデルチェンジされた。新型2007年モデル「ジープ・ラングラー」には、これまでの2ドアモデルに加え、ラングラー初の4ドア5人乗りモデル、「ジープ・ラングラーアンリミテッド」を新たにラインナップに加えた。2ドアのラングラーよりホイールベースを520mm延長し、後席に大人3人が乗車できる室内と広いカーゴスペースを持つラングラー・アンリミテッドは、クラスをリードするオフロード性能と高い利便性を兼ね備えているという。

また、ベーシックな標準装備のエントリーモデルとなる「スポーツ」と、洗練された外観と快適性を充実させた上級モデルの「サハラ」をラインナップ。また、4×4のリダ的存在にふさわしいモデルとして、究極のオフロード性能を誇る「ラングラー・ルビコン」も新たに追加されている。

レーサーとゴルファー プロ同士の業界人が楽しんだ!



「レーサーはゴルフ好き、プロゴルファーはクルマ好き。共に極めたふたつの世界がジョイントすれば、あらたな世界が生まれそう!」をスローガンに、6回目を迎えた、プロゴルファーとレーサーの競演[2007the業界対決]が、3月29日に開催された。

今年の会場は、午前中のゴルフ部門が富士国際ゴルフ倶楽部。午後のクルマ部門が、秋にF1開催を控える富士スピードウェイ。プロゴルファーとレーサー各1名と一般2名の組み合わせで、ゴルフとクルマを使って1日を楽しんだ。

午前中のゴルフは、プロゴルファーはハンディ+6、女子プロハンディ

+2、レーサーと一般は新ベリアでスコアが計算され、午後のカートタイムアタックとの順位との合計で総合順位が決まるというルール。

午後の部は、富士スピードウェイのカートコースで、レーサーに2秒のハンディが与えられるタイムトライアルを皮切りに、内外の自動車メーカー&インポーターの協力で結集した26台の最新型車を集めた大試乗会、高速安全運転講習会の「モビリティ」での実技講習、そして、マイカーでのF1コース体験走行と盛りだくさん。モビリティとF1コースの両方でレーサーのドライブするクルマの助手席に乗ったプロゴルファーは、興奮しまくりだった。

業界人 DE GAHAGAHA

大会の代表発起人を努める星野一義監督の助手席に乗りモビリティでパニックブレーキを体験した藤田寛之プロは、「とにかく面白い!クルマの運転の奥の深さに触れて感激した」と興奮のコメント。

日本人初のフルタイムF1ドライバー中嶋悟さんの隣で、低ミュー路を体験したゴルフ界の代表発起人の芹澤信雄プロは、「自分の運転の未熟さがよく分かりました。同時に、クルマがこんなに楽しいものだとことを発見しました」と、満面の笑みで答えた。

2007年、[the業界対決]の総合優勝は、ゴルフ部門4位、カート部門14位の芹澤信雄プロとゴルフ部門10位、カート部門8位の脇阪寿一選手がタイ。ちなみに、芹澤プロは、6回のうち3回目の優勝となった。



中嶋悟さんの助手席で低μ路を体験した芹澤信雄プロ。日本人初のフル参戦F1ドライバーのテクニックを目の当たりにし、思わずビースサイン。

低μ路で見事なカウンターステアを決める、プロの高いドライブテクニックを同乗体験。参加者全員がノリノリでコースへと繰りだした。

2007 [the業界対決]結果

総合の部(数字の左がゴルフ部門、右がカート部門の順位)	
1位	芹澤信雄(ゴルフ) 4/14=18
1位	脇阪寿一(レーサー) 10/8=18
3位	小林且雄(レーサー) 16/5=21
4位	白川 淳(一般) 6/18=24
4位	土屋武士(レーサー) 20/4=24
6位	室谷誠治(一般) 9/17=26
7位	田中 実(レーサー) 25/2=27
8位	土屋春雄(一般) 27/7=34
8位	柳田春人(レーサー) 5/29=34
10位	竹内浩典(レーサー) 19/16=35
カートの部(レーサーに2秒のハンディ加算)	
1位	井筒仁康(ゴルフ) 34秒467(男子モーター用品)
2位	田中 実(レーサー) 34秒494
3位	チャーリー・チェン(一般) 35秒018
4位	土屋武士(レーサー) 35秒345
5位	小林且雄(レーサー) 35秒420
6位	宮田正和(一般) 35秒609
7位	土屋春雄(一般) 35秒850
8位	脇阪寿一(レーサー) 35秒857
9位	原川光剛(ゴルフ) 35秒884
10位	土沼広芳(一般) 36秒118
ゴルフの部(プロはハンディ+6、一般は新ベリア)	
1位	萩原 仁(一般) 78/69.6
2位	高瀬順弘(一般) 83/69.8
3位	芹澤信雄(プロ) 65/71
4位	柳田春人(レーサー) 79/71.8
5位	丸山智弘(プロ) 66/72
6位	岩崎崇則(プロ) 66/72
7位	白川 淳(一般) 96/72
8位	脇阪寿一(レーサー) 83/72.2
9位	室屋誠治(一般) 83/72.2
10位	中嶋 悟(レーサー) 81/72.6

●上記以外の主な参加者
 (レーサー)堀岡浩、星野一義、高橋時邦、黒澤元治、竹平泰生、片岡龍也、
 竹内浩典、我本寛夫、中子修、谷口信輝、黒澤真
 (プロゴルファー)藤田寛之、宮本壽昌、高橋美保子、前田久仁子